



平成16年度  
教員個人評価(試行)

- 全学集計・分析結果 -

平成17年3月2日  
自己点検評価室



# 目次

■ 教員個人評価 平成16年度試行結果分析サマリー .....	3
■ 教員個人評価実施概要 .....	4
■ 診断項目(年間目標に対する実績)の評価.....	7
□ 診断項目(年間目標に対する実績)の役職別分析 .....	8
□ 役職別に見た診断項目(年間目標に対する実績)の評価.....	9
□ 部局別に見た診断項目(年間目標に対する実績)の評価(参考) .....	11
■ 役職別に見た診断項目(教育内容及び方法、研究水準及び研究内容、 社会的貢献の内容、大学管理・運営の内容)の評価 .....	13
□ 役職別に見た診断項目(年間目標に対する実績)の評価.....	14
■ 活動領域別の評点.....	16
□ 役職別に見た活動領域別の評価.....	17
□ 部局別に見た活動領域別の評点(参考).....	18
■ 活動領域別の重点比率.....	20
□ 役職別に見た活動領域別の重点比率.....	21
□ 部局別に見た活動領域別の重点比率(参考).....	22

## 教員個人評価 平成16年度試行結果分析サマリー

- 全教員の半数以上が教育領域、研究領域及び社会貢献において「卓越」及び「優秀」と自己評価する。特に社会貢献領域では57%と高い比率であった。
- 役職別では教授と助教授が同様の傾向を示し、教育領域及び社会貢献では約60%、研究領域では53%の教員が「卓越」又は「優秀」との自己評価であった。講師は教育領域のみ47%だが、社会貢献と研究領域は教授・助教授とほぼ同等であった。一方、助手は「卓越」「優秀」の自己評価が各領域とも50%以下であった。特に管理運営では、教授>助教授>講師>助手と役職階層に対応した序列となった。
- 教員の多くは、教育活動、研究活動、社会貢献、学内運営に均等な重点比率を置く。しかし、研究活動に重点を高めに設定する傾向がある。



# 教員個人評価実施概要

## ■ 実施対象者および実施方法

### □ 実施対象者

- 愛媛大学専任教員及び外国人教師を対象とし、各部局で実施した。

### □ 実施スケジュール

- 8月30日に教員個人評価を部局に依頼した。専任教員及び外国人教師は10月初旬までに部局内評価委員会に提出した後、部局内で集計・分析を実施した。
- 部局評価委員会は12月10日までに各々の部局の集計及び分析結果を学長宛に報告した。
- 部局から提出された集計表を基にして、自己点検評価室が全学分の集計及び分析を行い、学長に報告した。この報告は「教員個人評価（自己評価）」の試行に対する意見への対応」とともにWebを通じて学内に公開される。

### □ 回答率

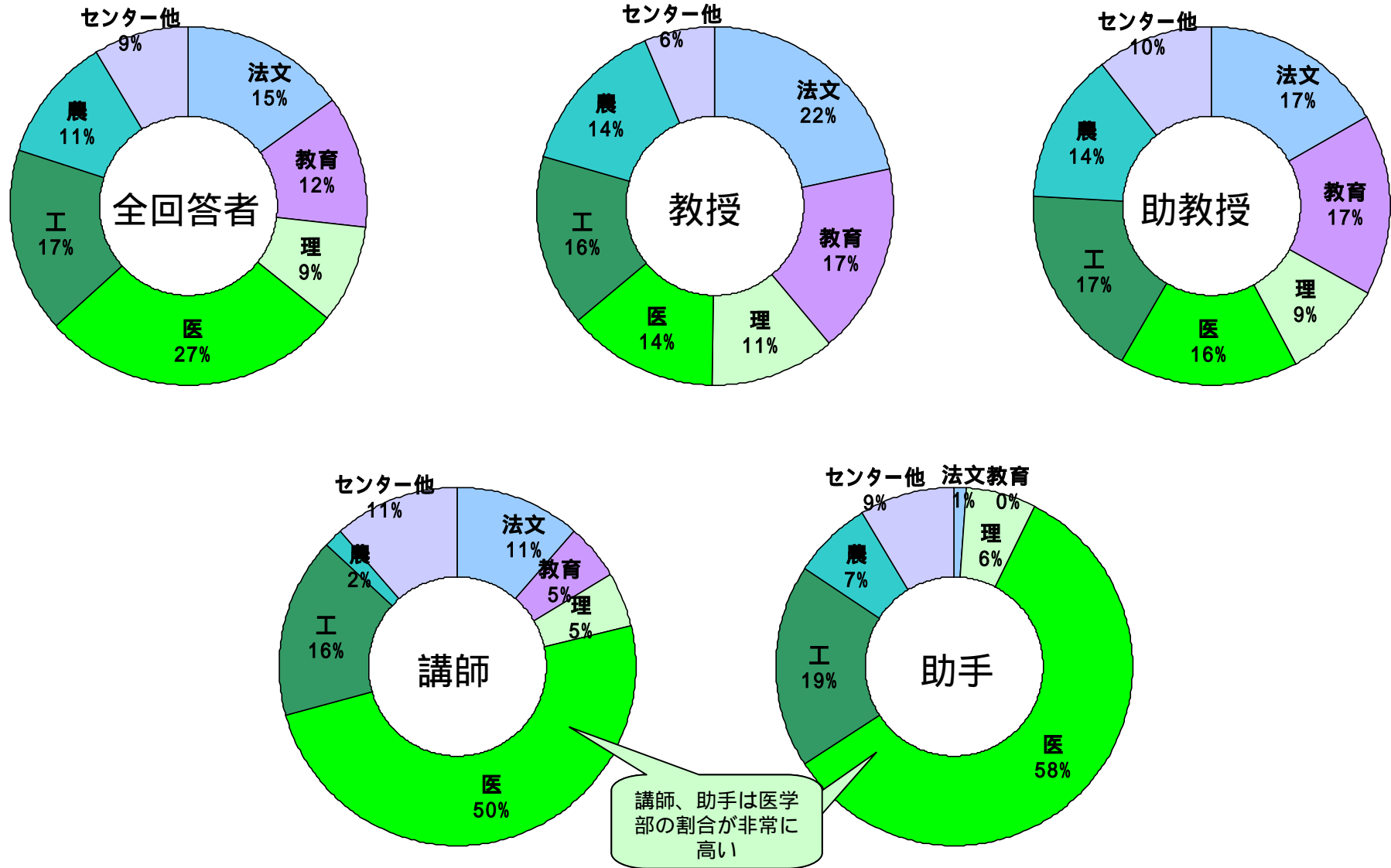
- 対象者826名の内、779名（94%）から回答を得た。

# 教員個人評価実施概要

## ■ 部局別対象者数及び回収率

	部局名	回収率	対象者 (人)	提出者 (人)
法	法文学部	95.1%	123	117
教	教育学部	93.2%	103	96
理	理学部	100.0%	68	68
医	医学部・附属病院	95.0%	221	210
工	工学部	94.2%	139	131
農	農学部	87.1%	101	88
	連合農学研究科	100.0%	1	1
理系研究 3センター	沿岸環境科学研究センター	100.0%	13	13
	地球深部ダイナミクス研究センター	100.0%	7	7
	無細胞生命化学工学研究センター	90.0%	10	9
全学 センター	保健管理センター	100.0%	2	2
	総合科学研究支援センター	90.9%	11	10
	総合情報メディアセンター	100.0%	6	6
	地域共同研究センター	100.0%	2	2
	地域創成研究センター	100.0%	2	2
	教育・学生支援機構	100.0%	16	16
	経営情報分析室	100.0%	1	1
	合計	94.3%	826	779

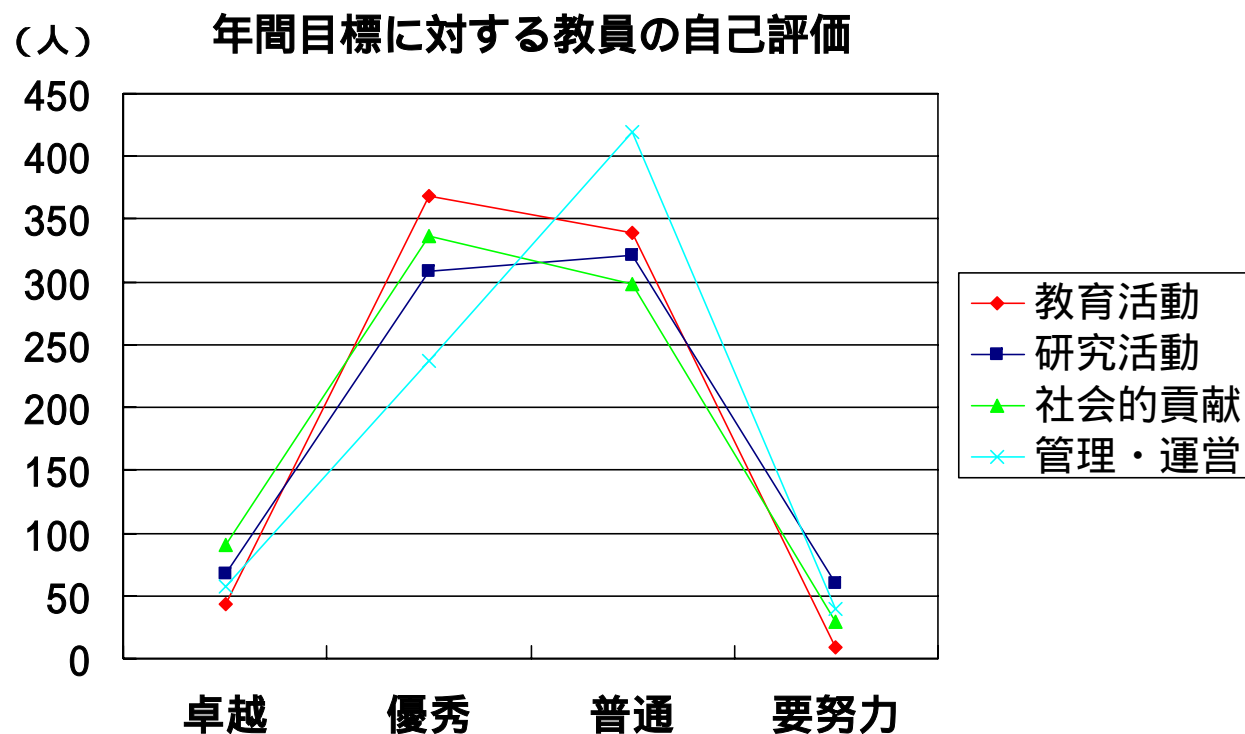
# 役職別に見た部局別回答者構成



\* 部局から提出された実回答者数の  
最大値から算出

## 診断項目（年間目標に対する実績）の評価

- ・ 年間の活動目標に対する教員の自己評価は「優秀」と「普通」を頂点とした分布となった。
- ・ 全教員の約54%が教育活動、研究活動及び社会貢献において「卓越」及び「優秀」と自己評価する。
  - 「卓越」「優秀」の理由が分かる、活動成果の定量的かつ具体的な記述が求められる。



# 診断項目（年間目標に対する実績）の役職別分析

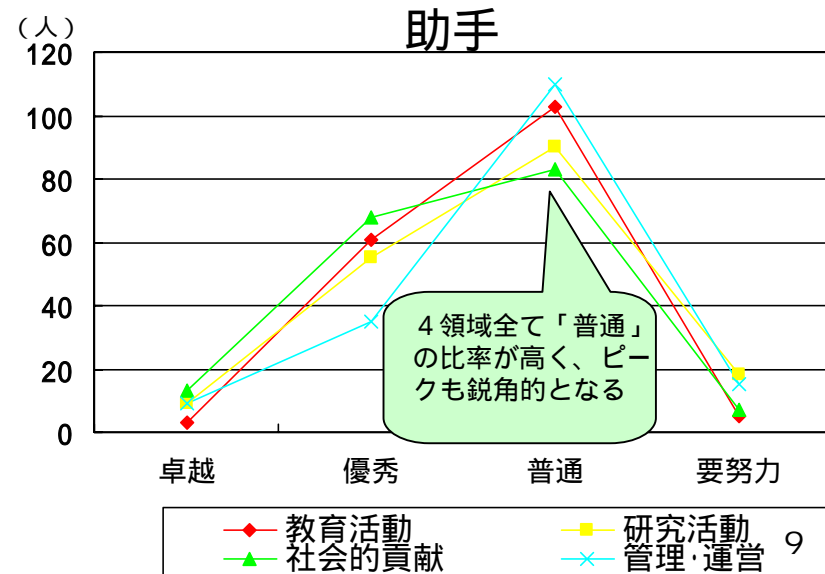
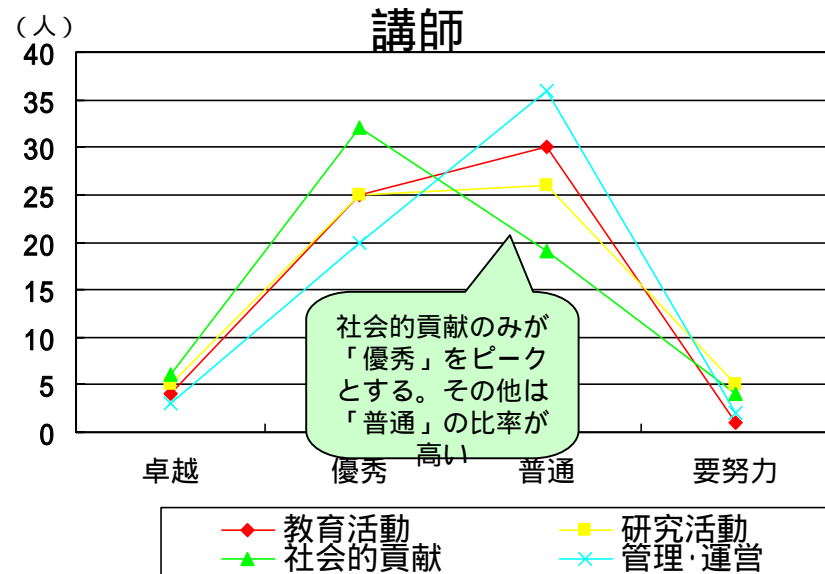
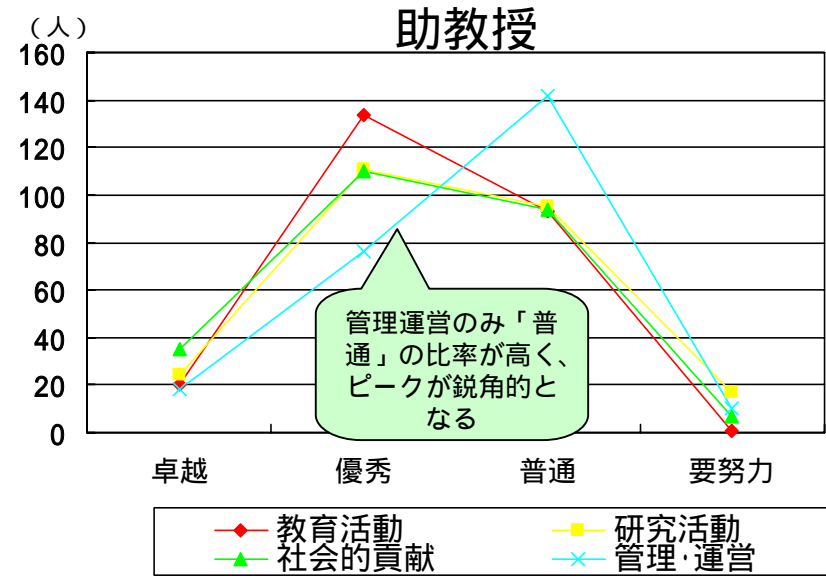
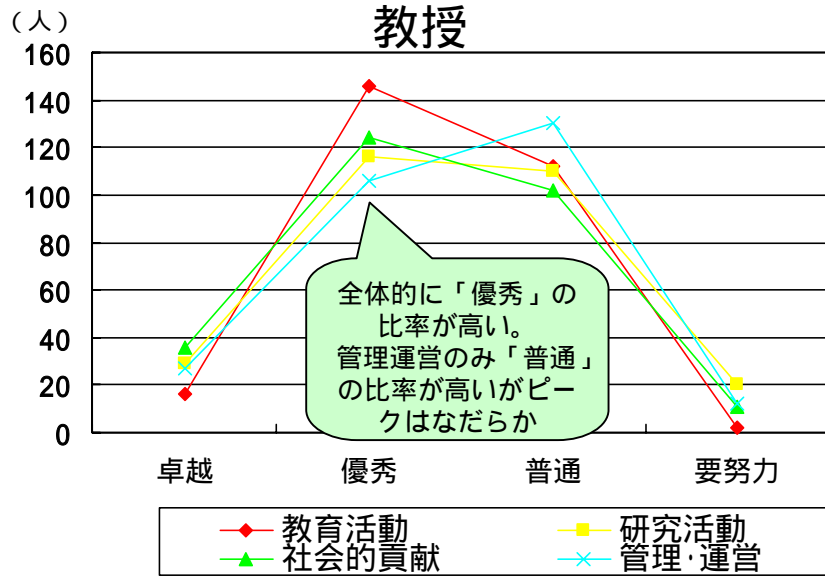
- 「卓越」・「優秀」と自己評価する教員の比率 -
- ・ 教授・助教授の50～60%は教育領域、研究領域、社会貢献で「卓越」「優秀」と自己評価する。
- ・ 講師は教育領域、研究領域で50%弱が、社会貢献領域では62%が「卓越」「優秀」と評価する。
- ・ 助手は全ての領域において講師よりも10%以上低い。
- ・ 全ての領域を概観すると役職階層に対応した教授 > 助教授 > 講師 > 助手の順序となった。

## 「卓越」・「優秀」と自己評価する教員の比率

	教授	助教授	講師	助手	外国人教師	全役職
教育領域	59%	62%	48%	37%	75%	54%
研究領域	53%	55%	49%	37%	100%	50%
社会貢献	59%	59%	62%	47%	100%	57%
管理運営	48%	38%	38%	26%	0%	39%

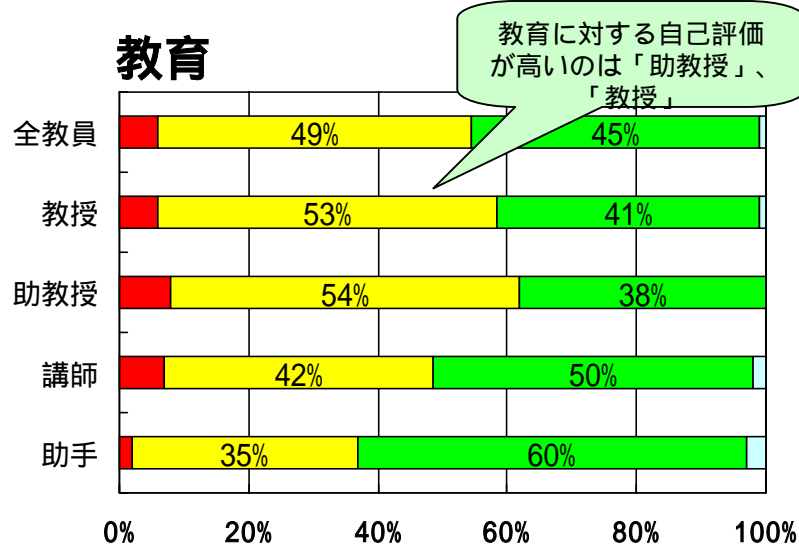


# 役職別に見た診断項目（年間目標に対する実績）の評価

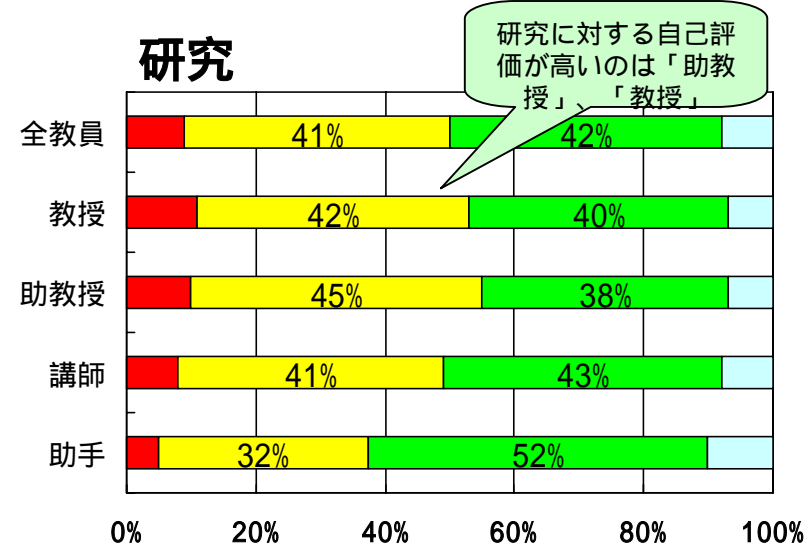


# 役職別に見た診断項目（年間目標に対する実績）の評価

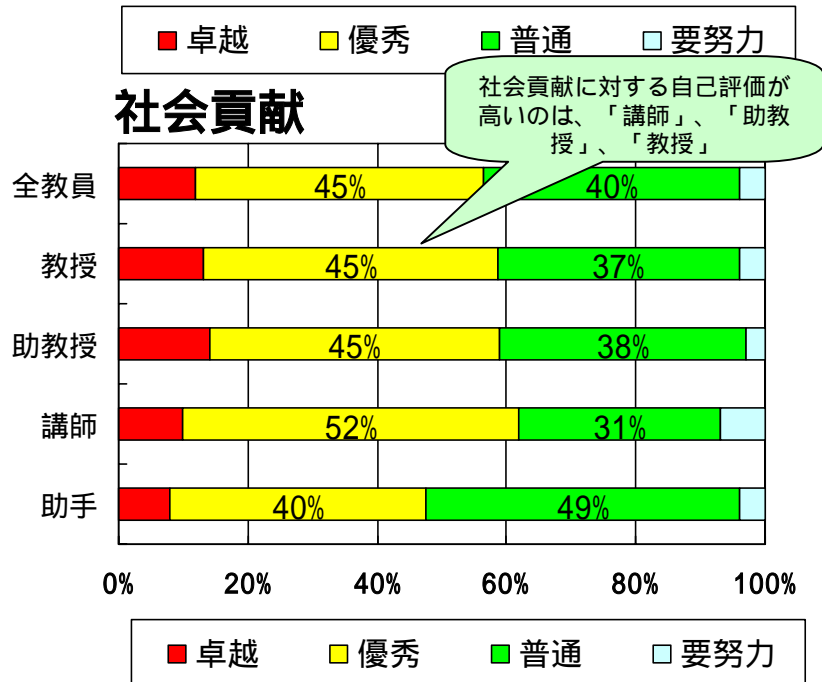
## 教育



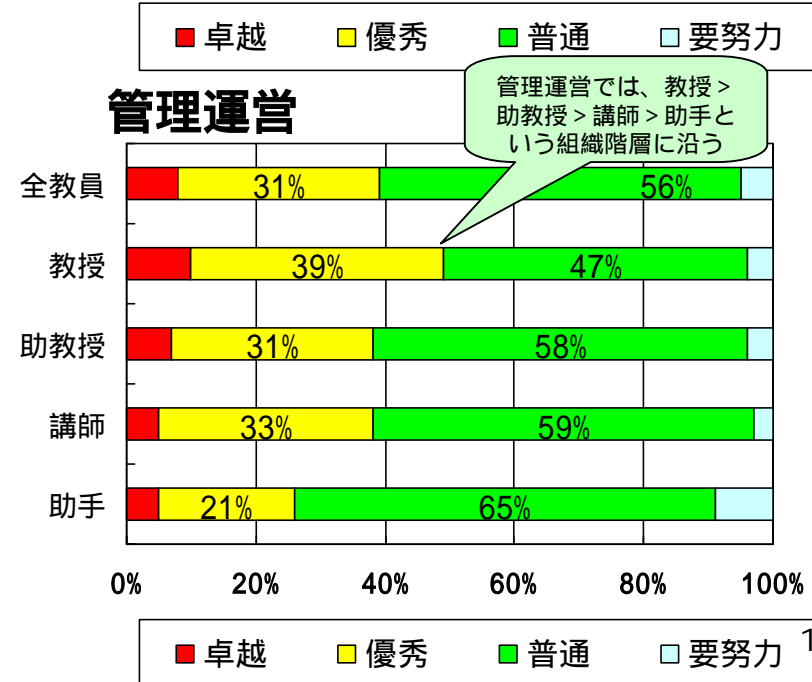
## 研究



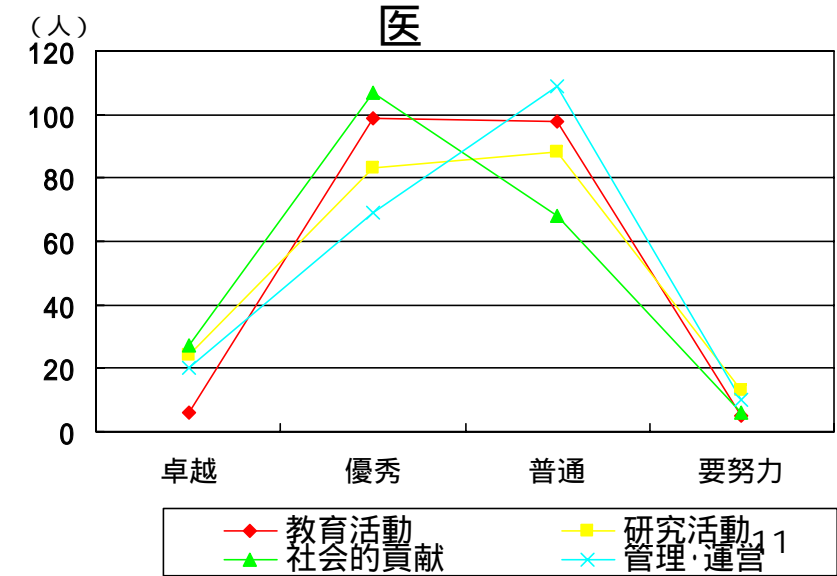
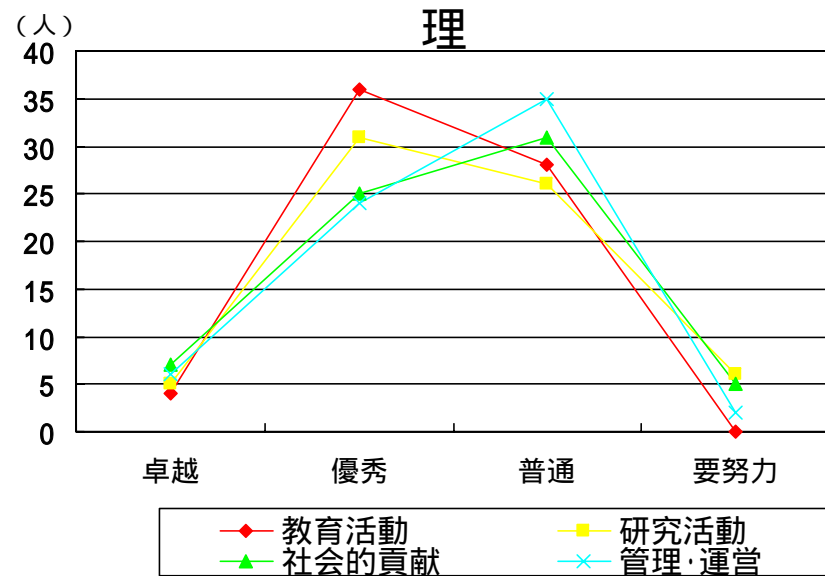
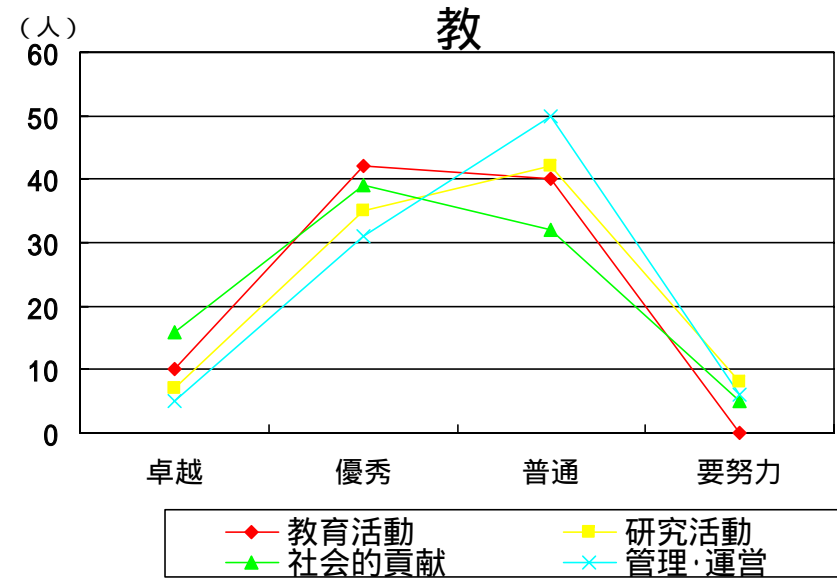
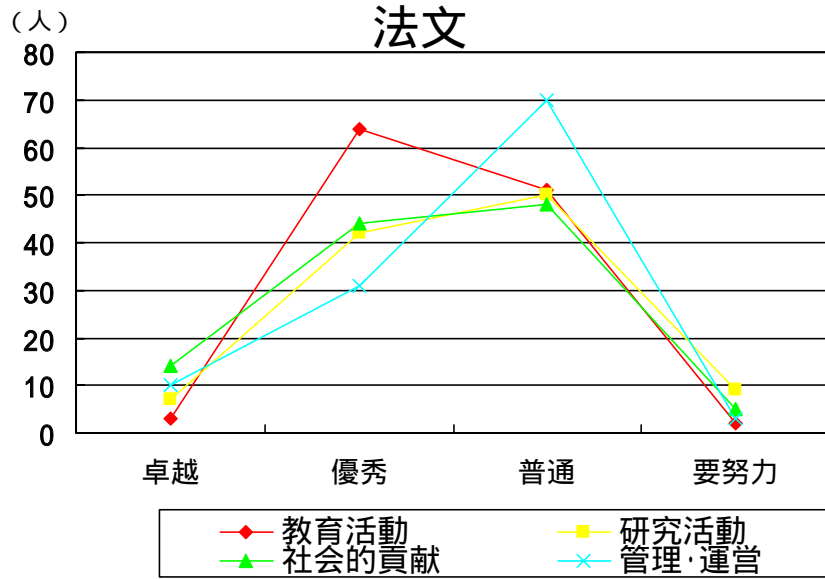
## 社会貢献



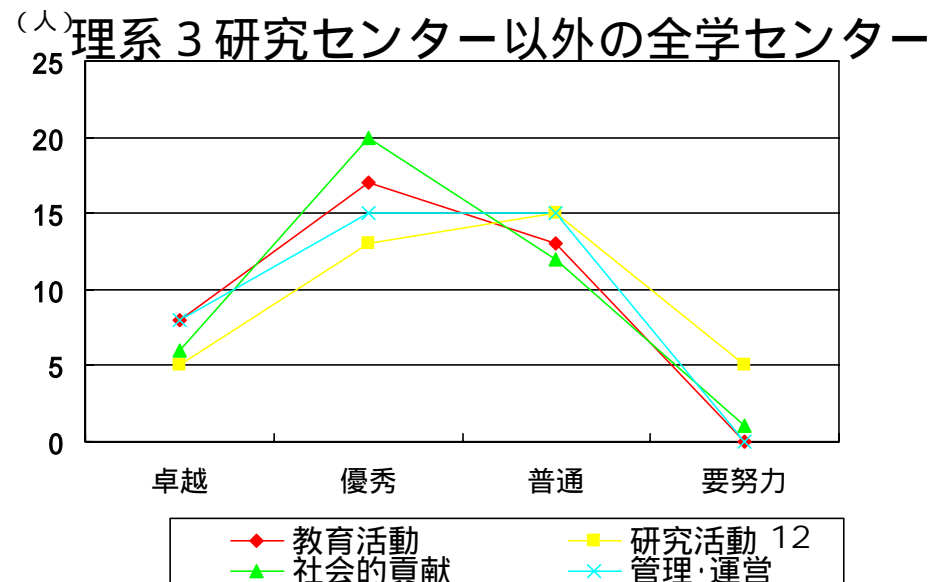
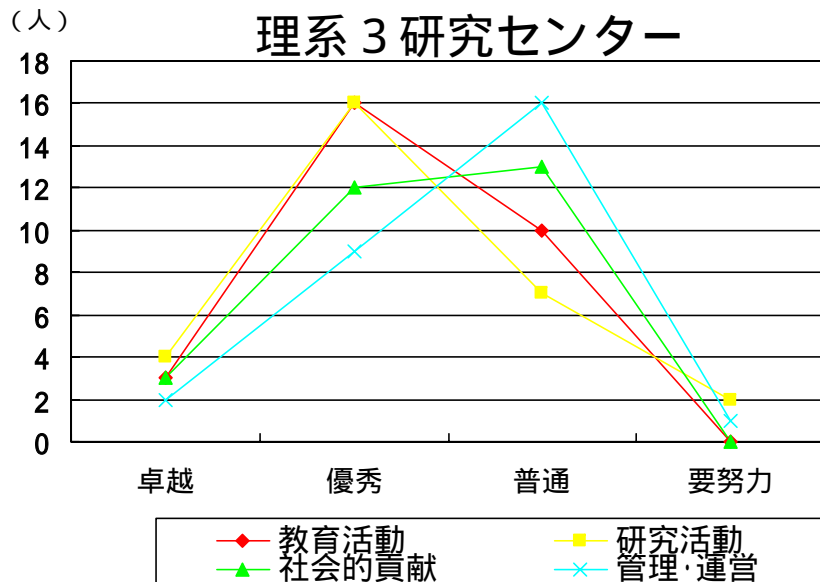
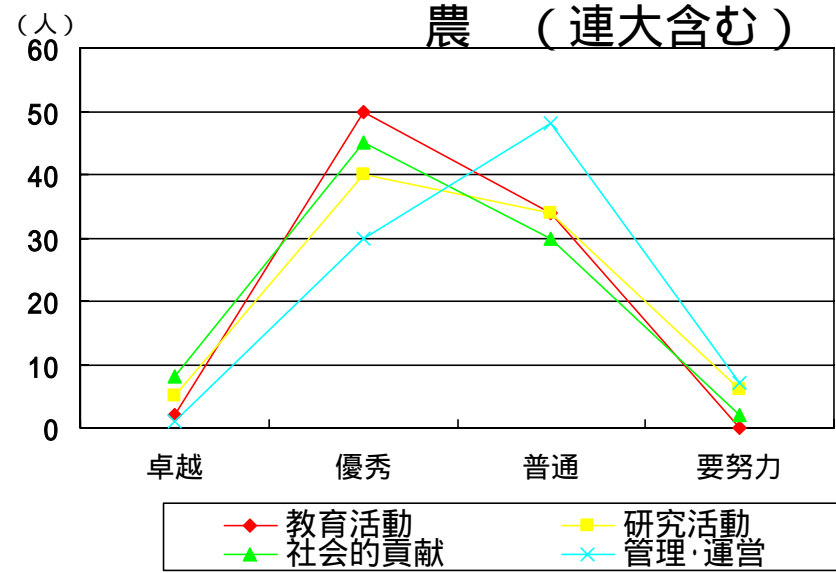
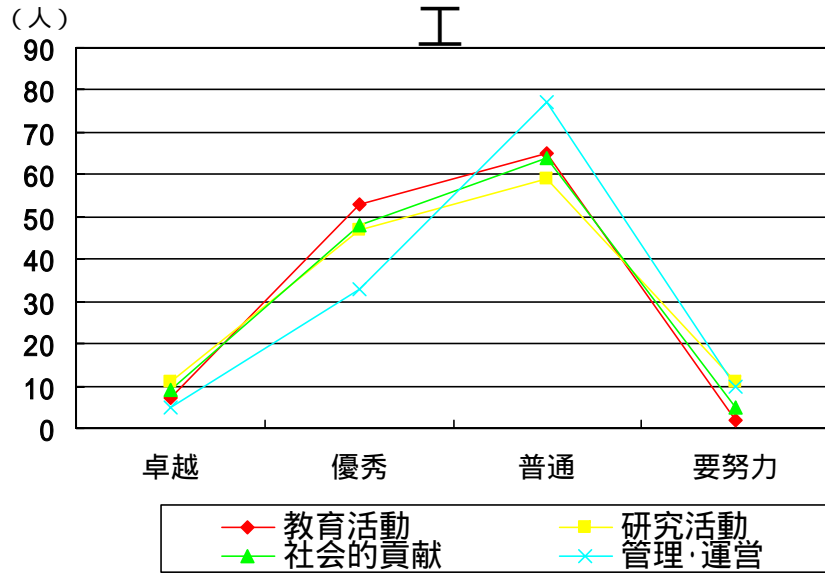
## 管理運営



# 部局別に見た診断項目（年間目標に対する実績）の評価（参考）



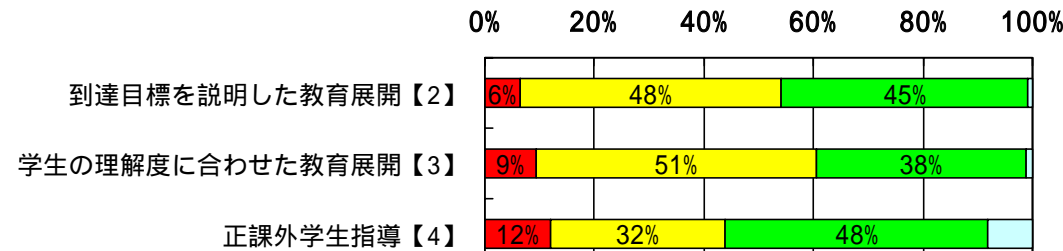
# 部局別に見た診断項目（年間目標に対する実績）の評価（参考）



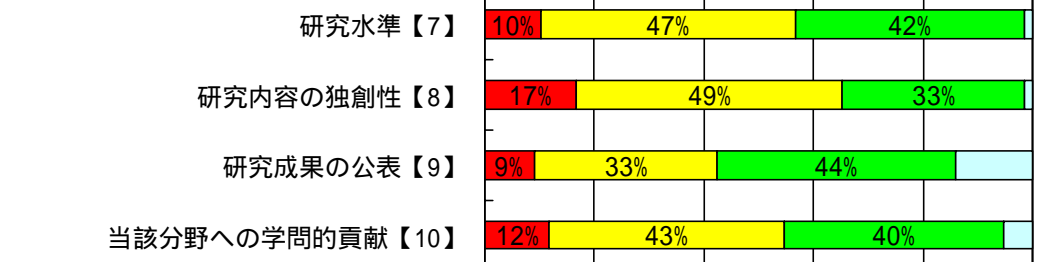
# 役職別に見た診断項目（教育内容及び方法、研究水準及び研究内容、社会的貢献の内容、大学管理・運営の内容）の評価

## 全役職

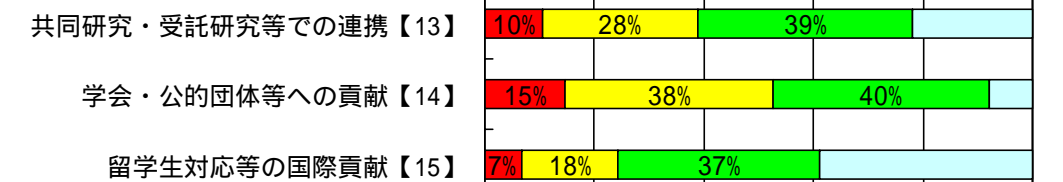
### 教育領域



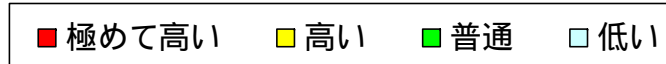
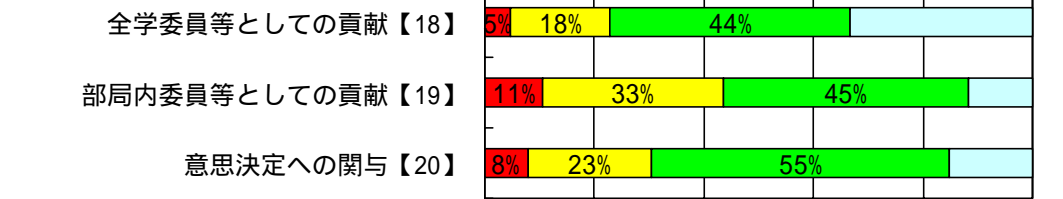
### 研究領域



### 社会貢献



### 管理運営



・教育領域では「到達目標を説明した教育展開」と「学生の理解度に合わせて教育展開」のいずれも90%を超える教員が「普通」以上と回答する。

学生側の授業評価と対比させることも必要と思われる。

・研究水準では59%の教員が「極めて高い」、「高い」と答えるが、研究成果の公表では「高い」の比率が45%と落ち込む。

研究成果の公表を促す施策が必要と思われる。

・管理運営「全学委員等としての貢献」と社会貢献「留学生対応等の国際貢献」、「共同・受託研究での連携」に対して「低い」と答える教員が多い。

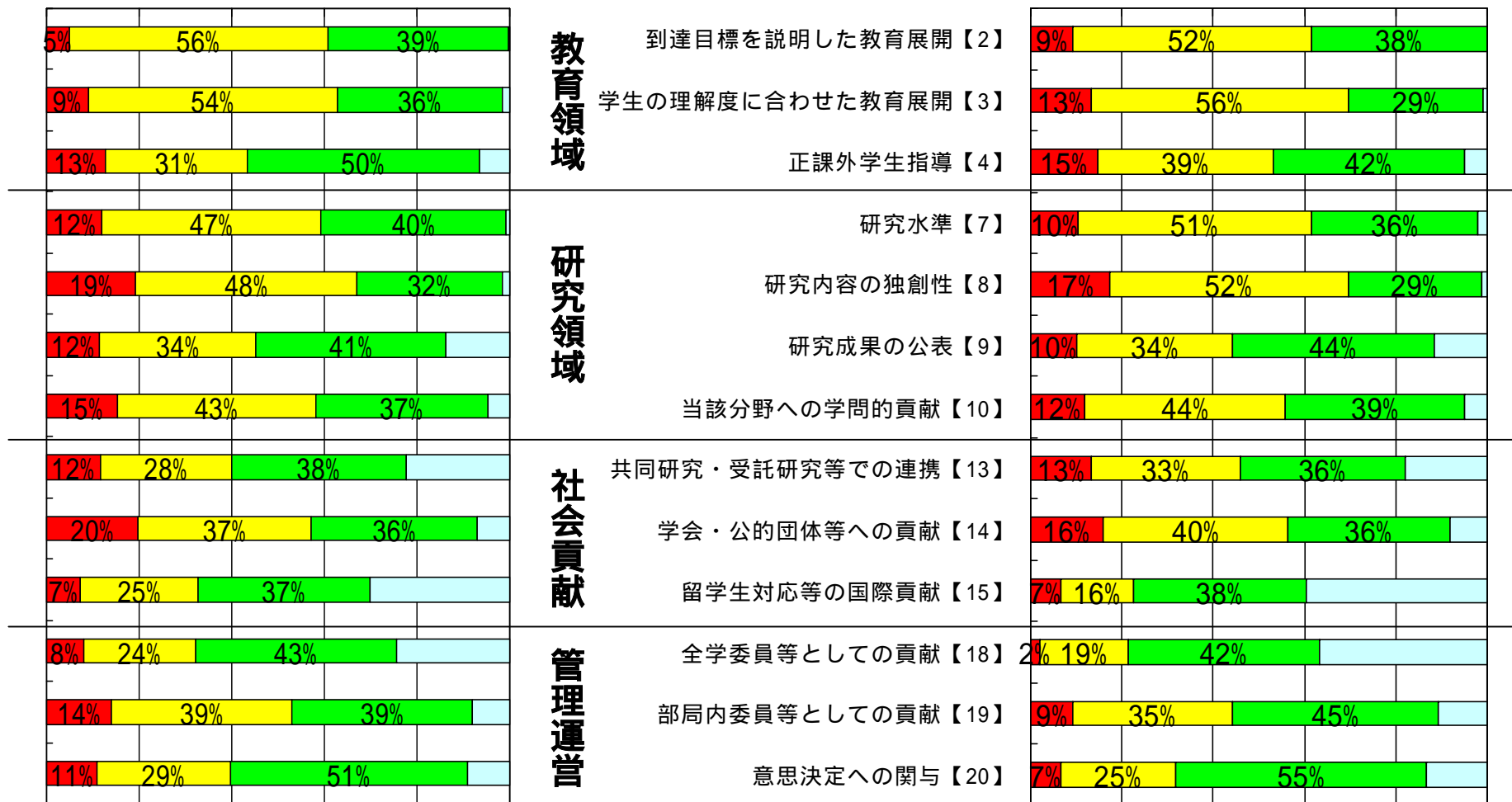
# 役職別に見た診断項目（教育内容及び方法、研究水準及び研究内容、社会的貢献の内容、大学管理・運営の内容）の評価

教授

助教授

0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 極めて高い ■ 高い ■ 普通 □ 低い

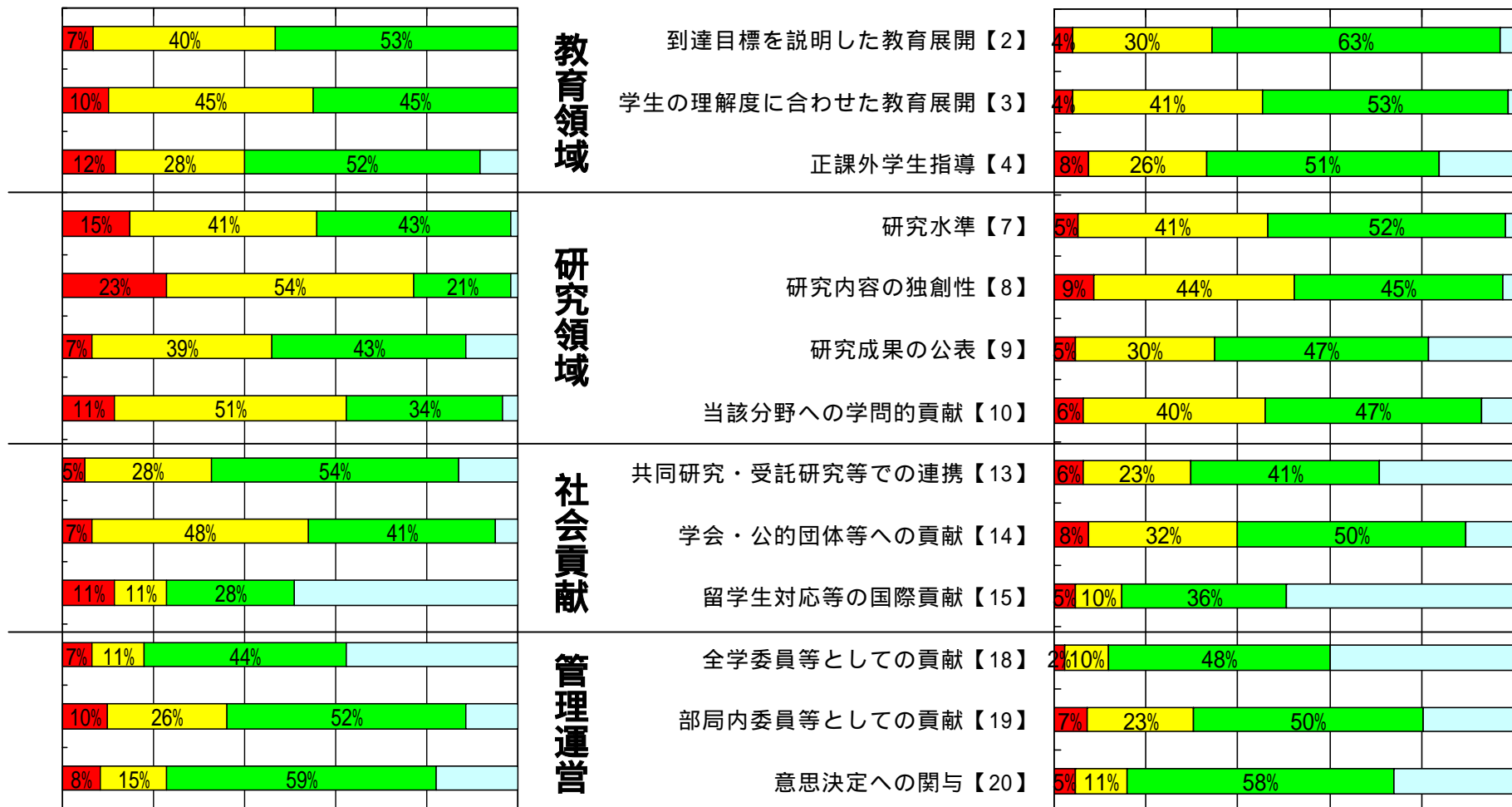
# 役職別に見た診断項目（教育内容及び方法、研究水準及び研究内容、社会的貢献の内容、大学管理・運営の内容）の評価

講師

助手

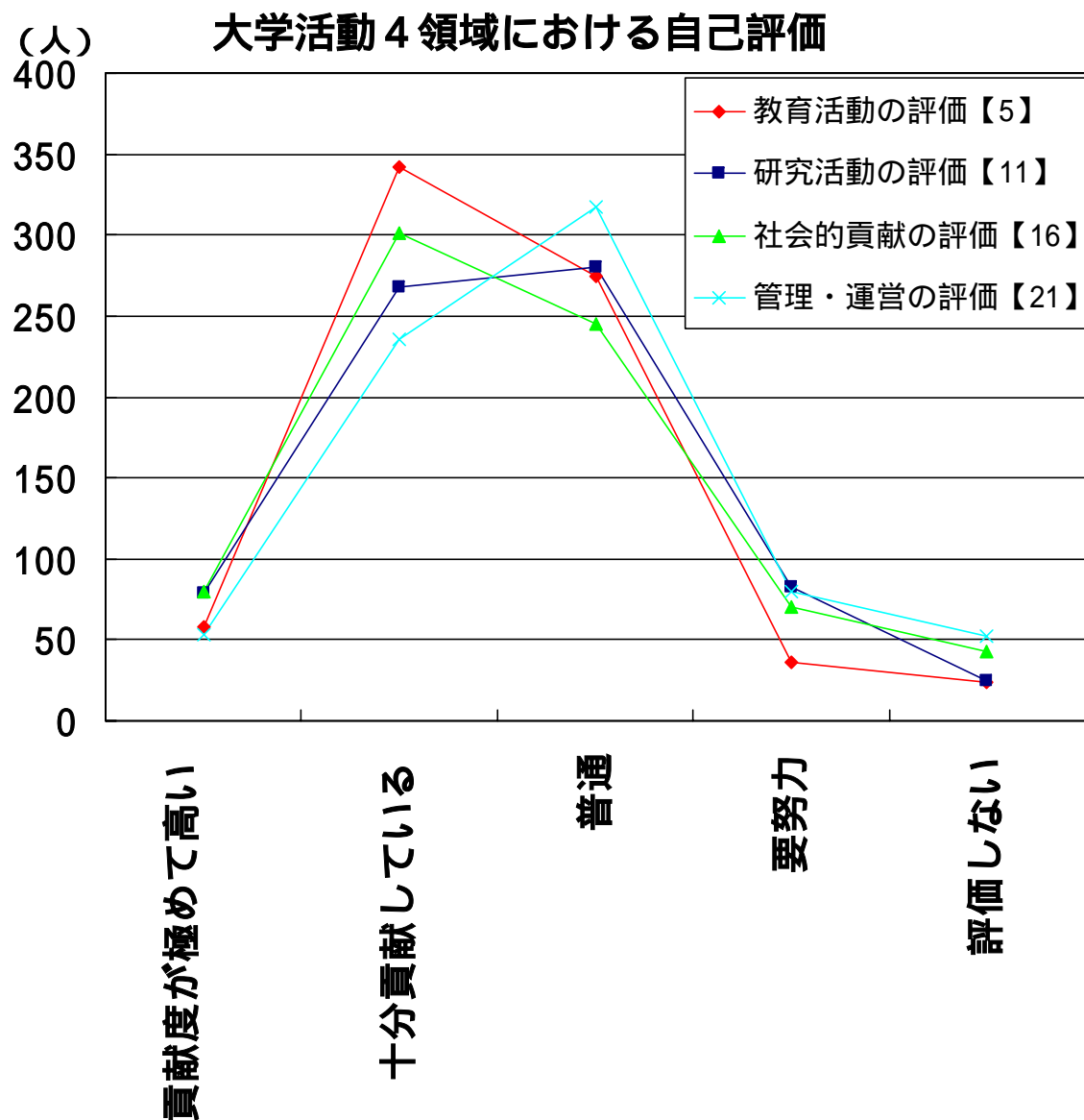
0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 極めて高い ■ 高い ■ 普通 ■ 低い

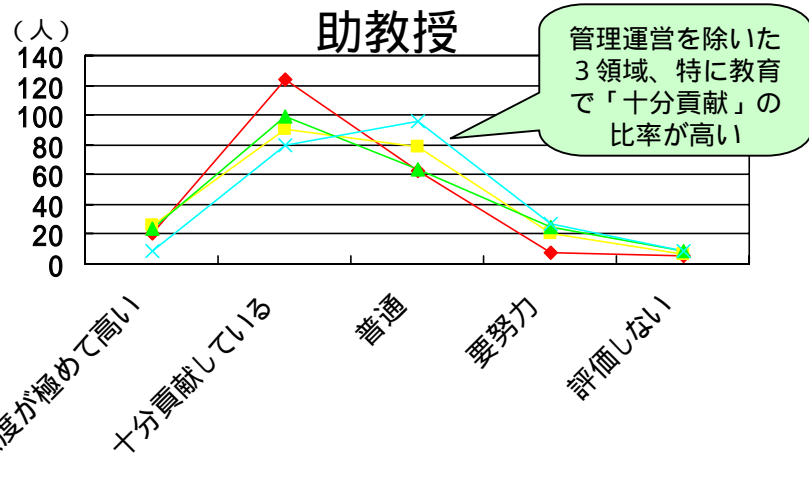
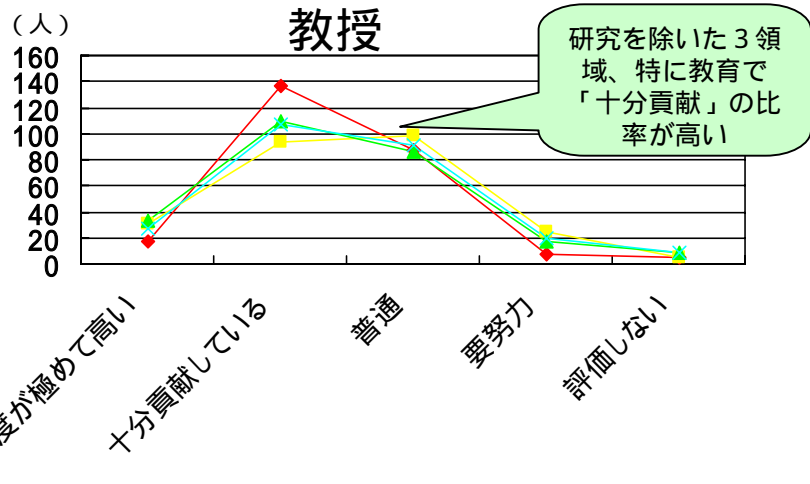
# 活動領域別の評点



- 大学における4つの活動領域に対する自己評価は「十分貢献している」と「普通」を頂点とした分布となった。
- 教育領域、社会貢献領域では、「十分貢献している」を頂点とする。その中でも、教育活動で高評価とする教員が多い。その中でも教育面での貢献度が高い。
- 研究活動及び管理運営では「普通」を頂点とする。研究活動では、「十分貢献している」の対し、管理運営では「普通」の評価者が多く、ピークが鋭くなる。

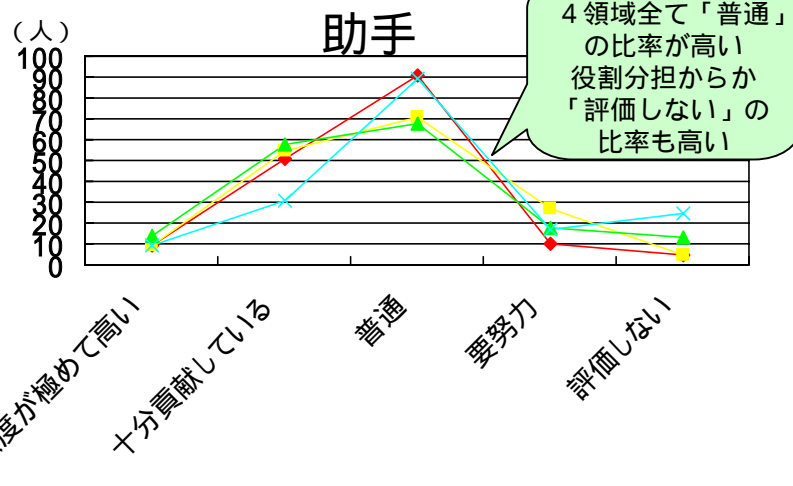
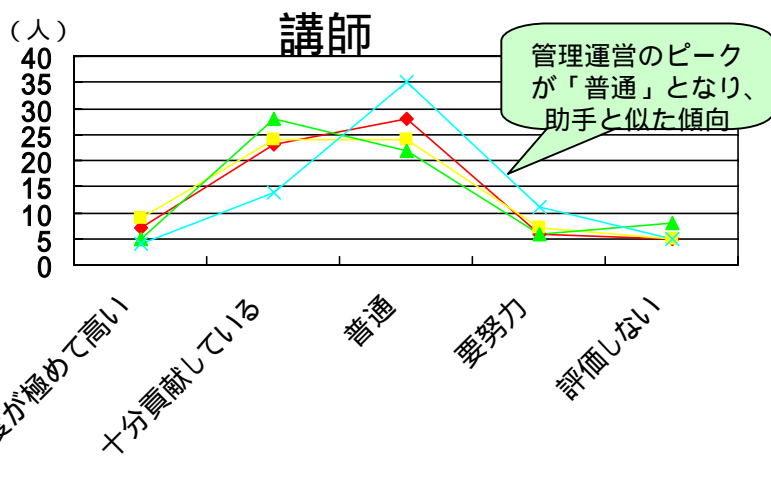


# 役職別に見た活動領域別の評価



◆ 教育活動の評価【5】    ■ 研究活動の評価【11】  
 ▲ 社会的貢献の評価【16】    × 管理・運営の評価【21】

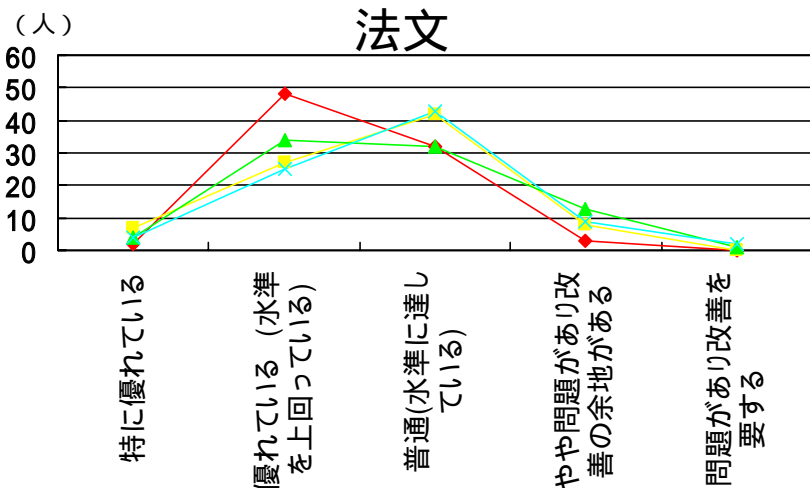
◆ 教育活動の評価【5】    ■ 研究活動の評価【11】  
 ▲ 社会的貢献の評価【16】    × 管理・運営の評価【21】



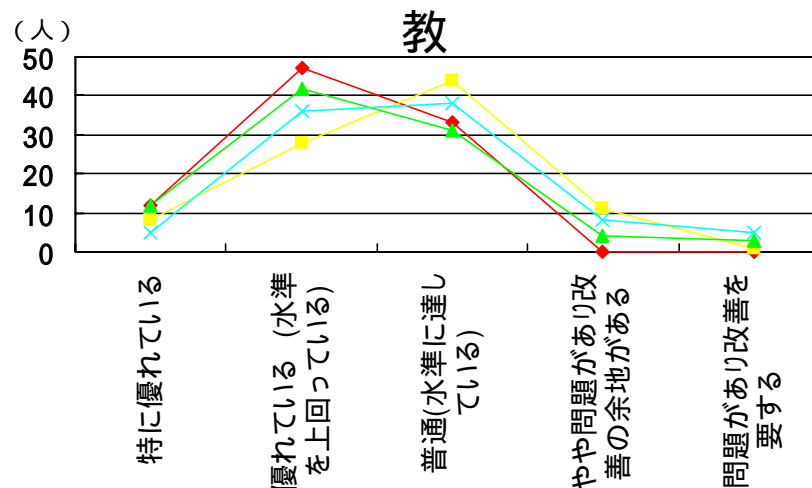
◆ 教育活動の評価【5】    ■ 研究活動の評価【11】  
 ▲ 社会的貢献の評価【16】    × 管理・運営の評価【21】

◆ 教育活動の評価【5】    ■ 研究活動の評価【11】  
 ▲ 社会的貢献の評価【16】    × 管理・運営の評価【21】

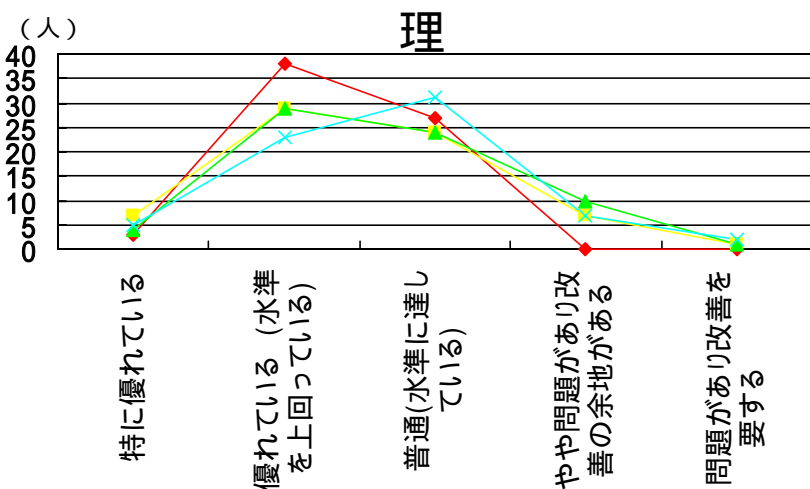
# 部局別に見た活動領域別の評点(参考)



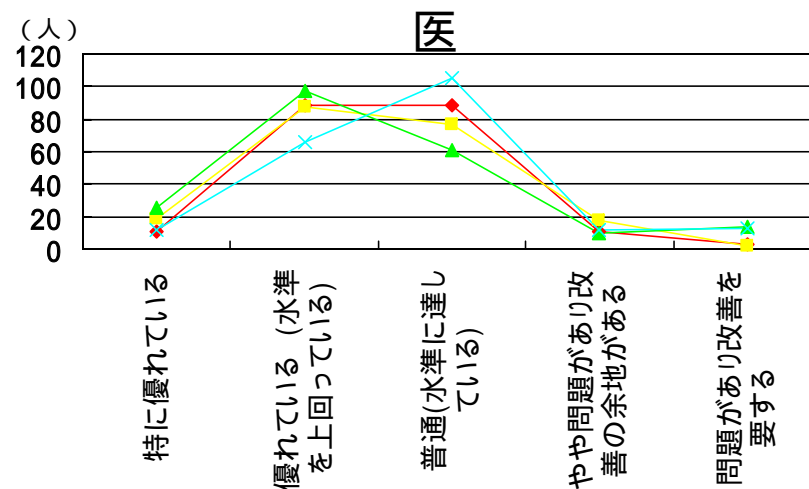
◆ 教育活動の評価【5】    ■ 研究活動の評価【11】  
 ▲ 社会的貢献の評価【16】    × 管理・運営の評価【21】



◆ 教育活動の評価【5】    ■ 研究活動の評価【11】  
 ▲ 社会的貢献の評価【16】    × 管理・運営の評価【21】

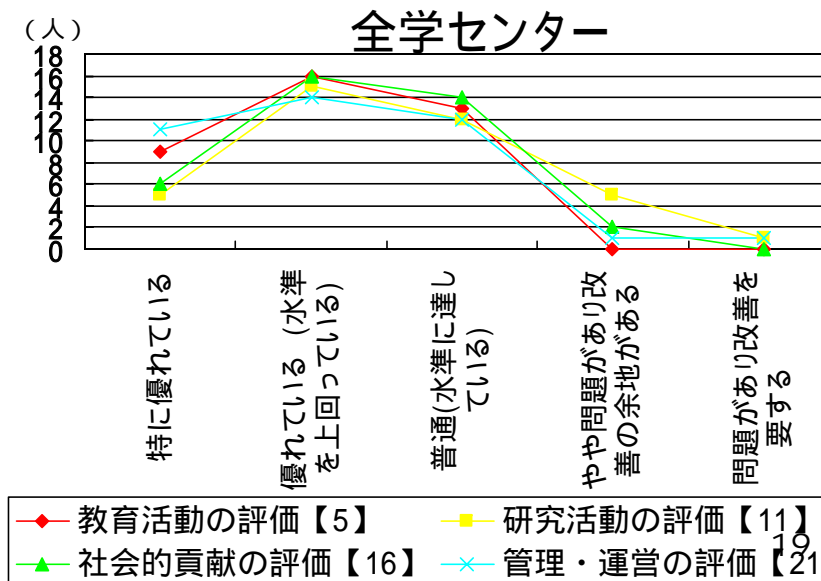
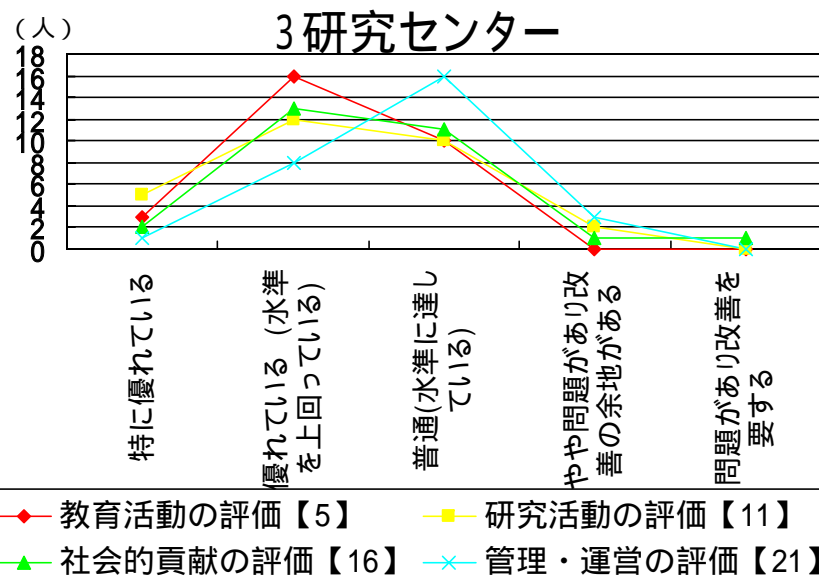
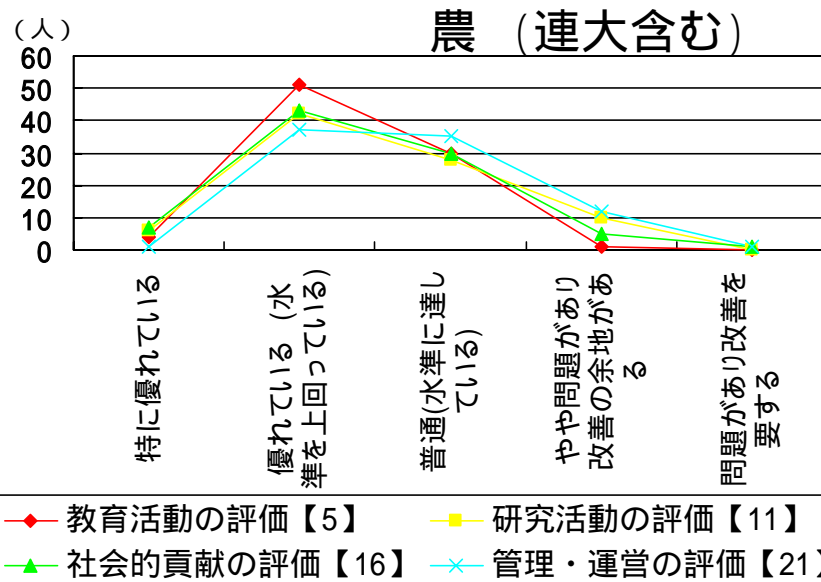
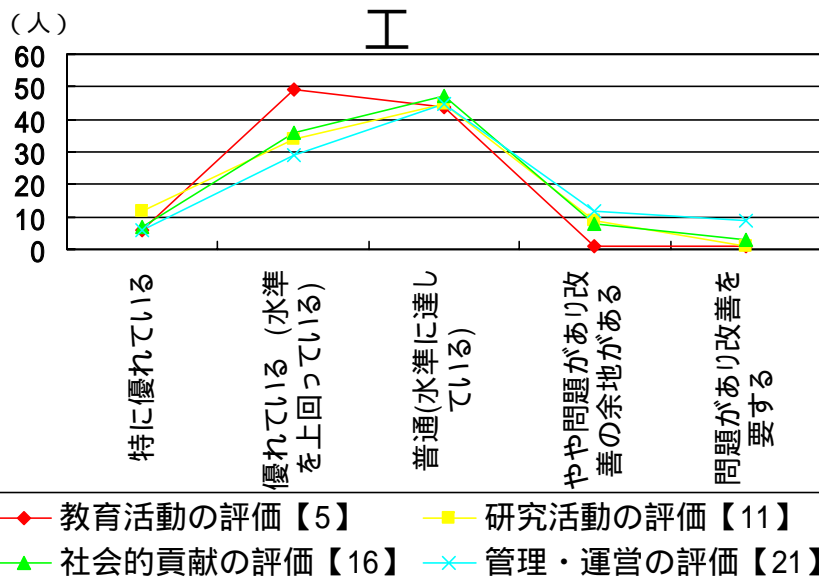


◆ 教育活動の評価【5】    ■ 研究活動の評価【11】  
 ▲ 社会的貢献の評価【16】    × 管理・運営の評価【21】

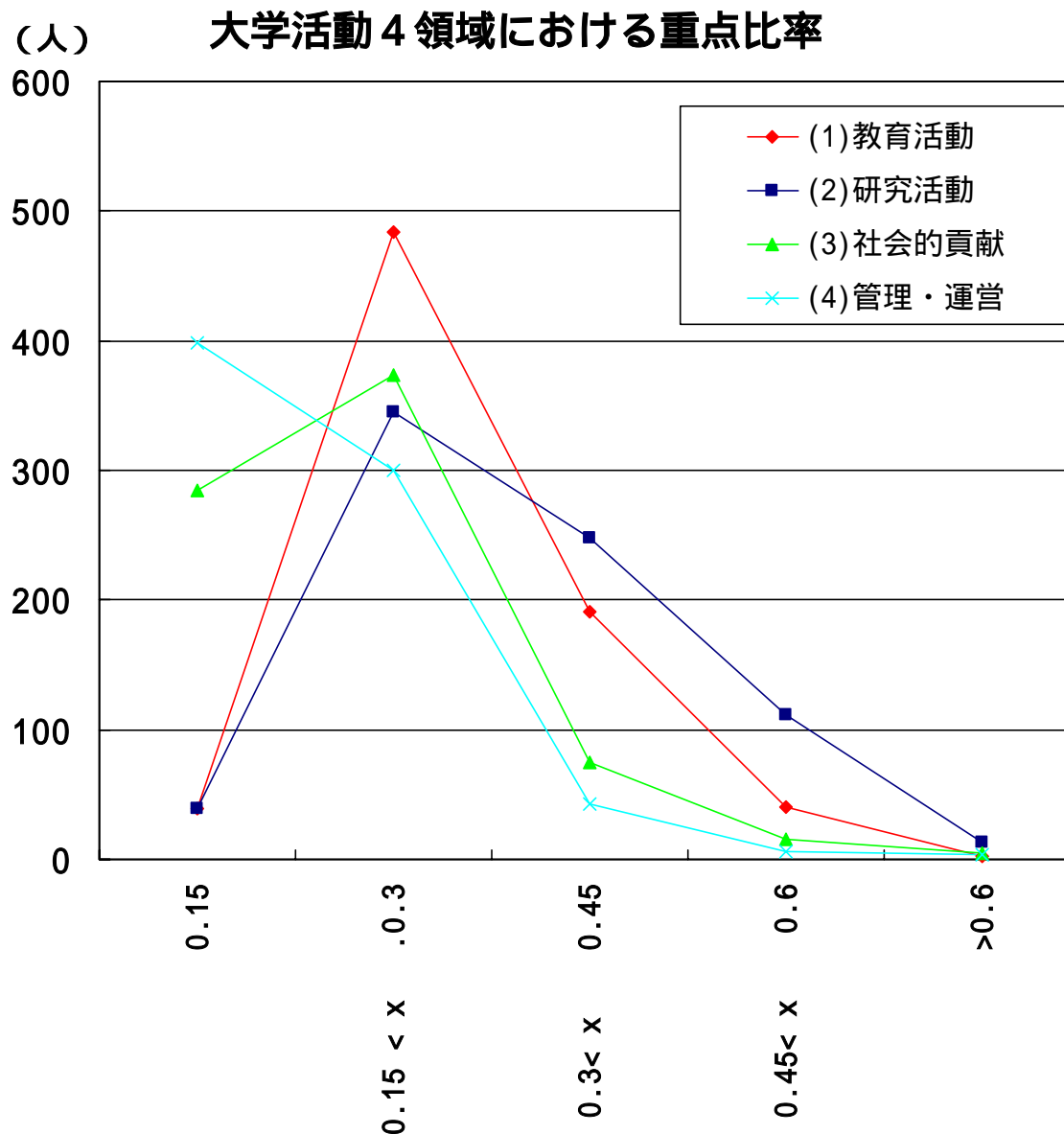


◆ 教育活動の評価【5】    ■ 研究活動の評価【11】  
 ▲ 社会的貢献の評価【16】    × 管理・運営の評価【21】

# 部局別に見た活動領域別の評点(参考)

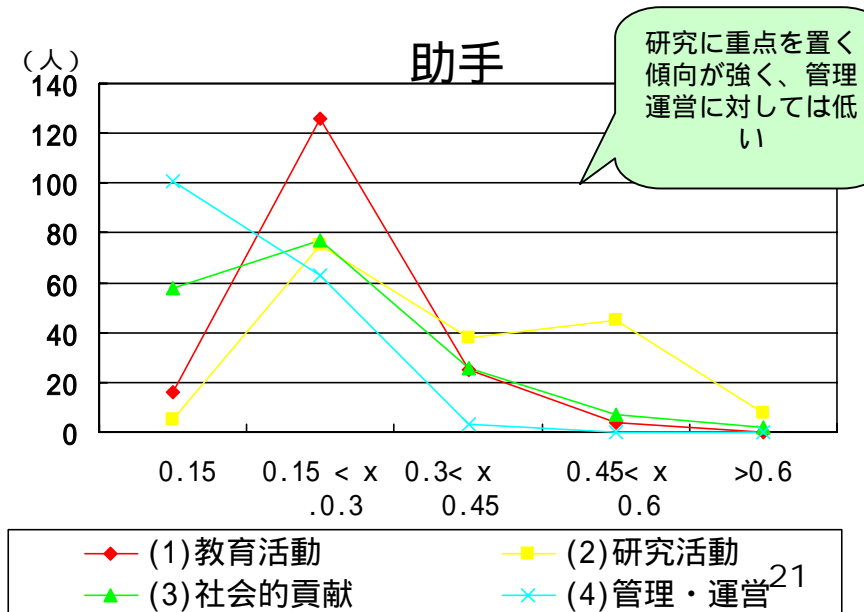
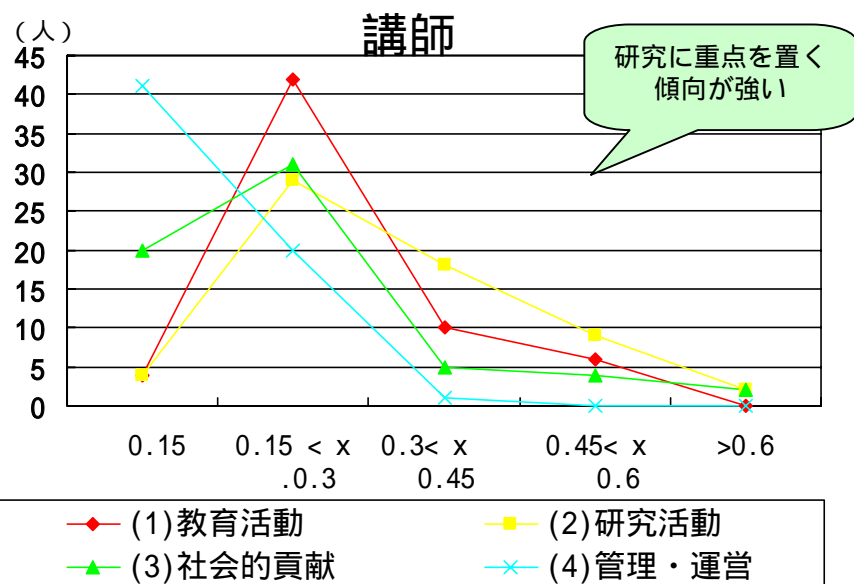
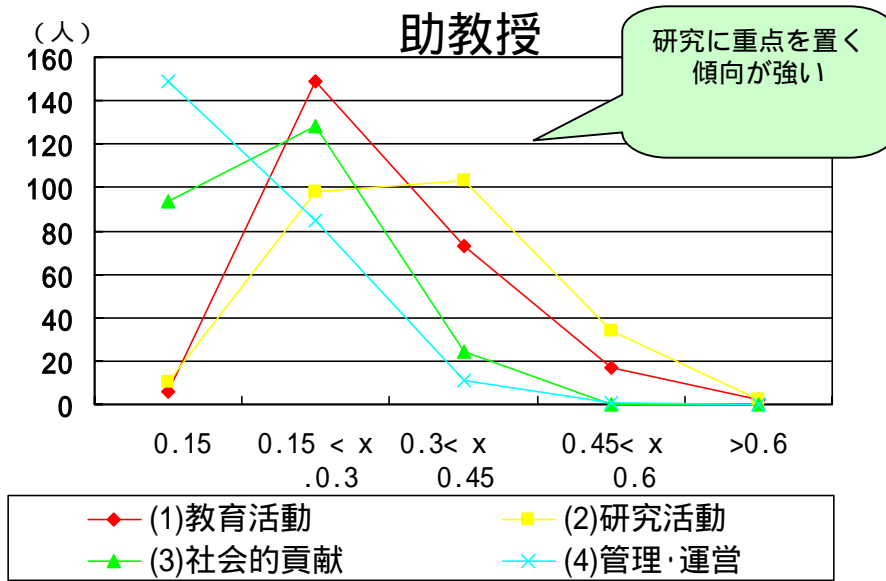
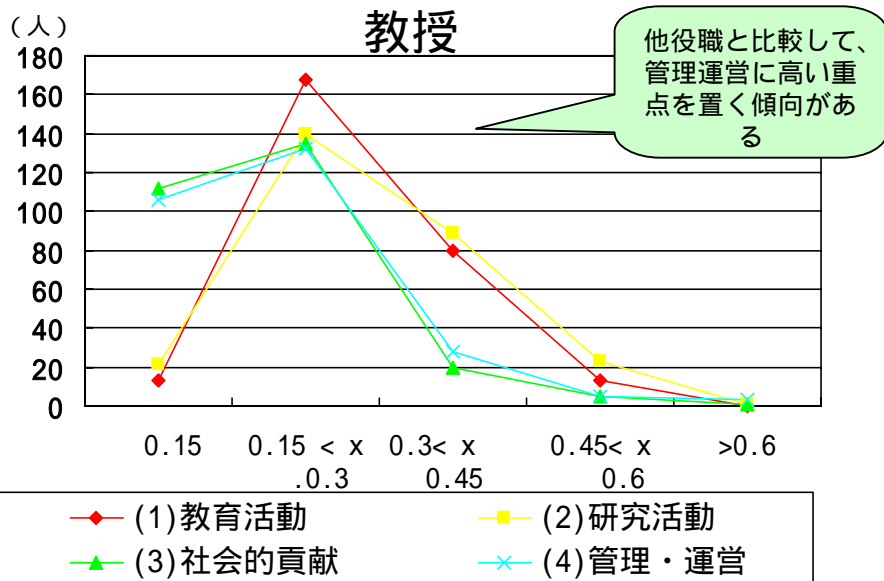


# 活動領域別の重点比率

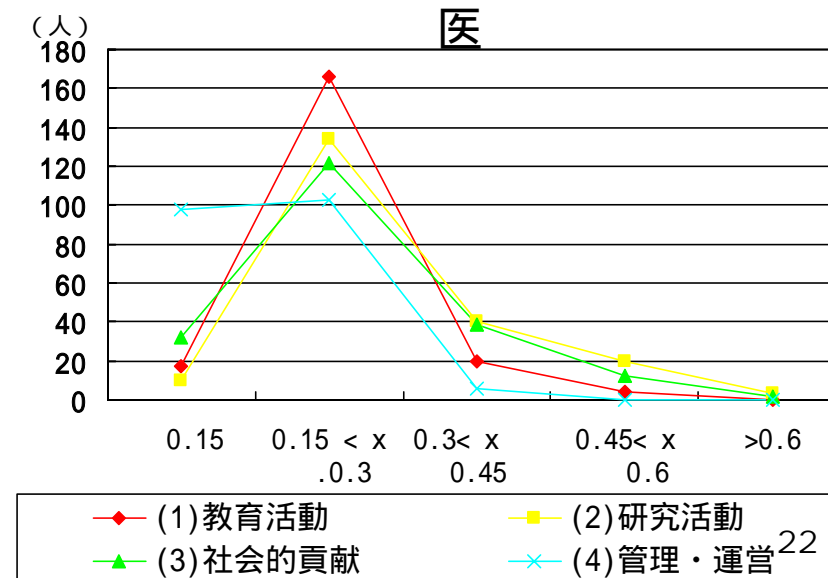
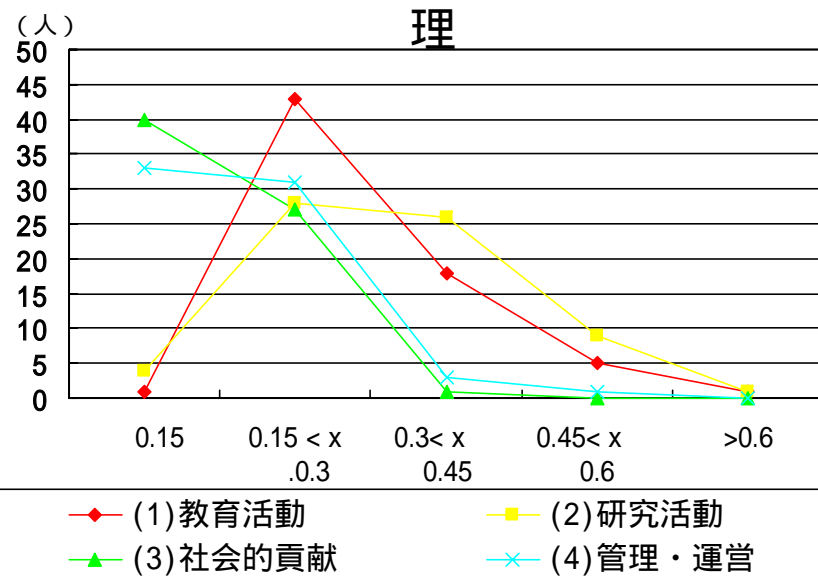
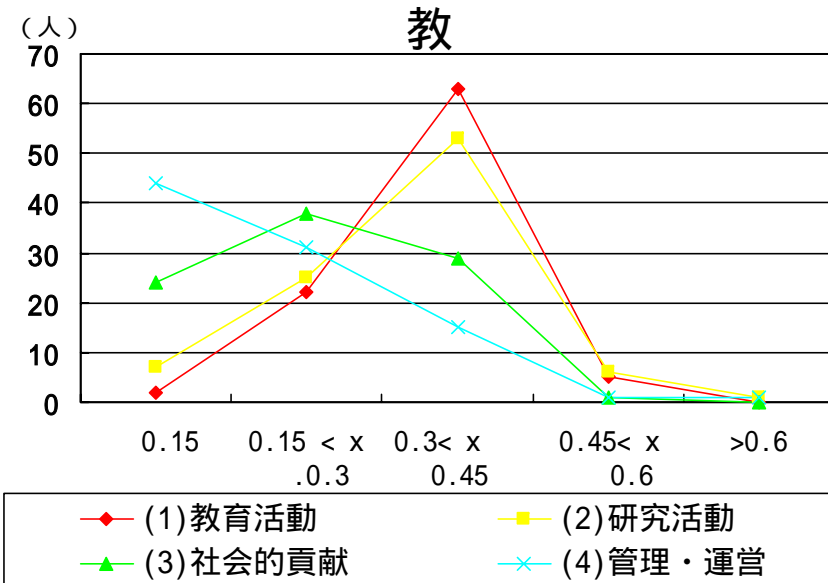
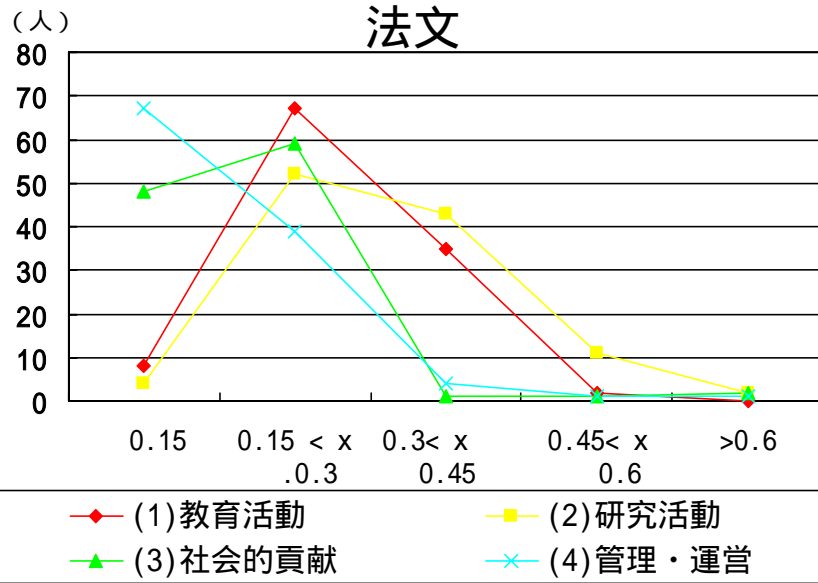


- ・ 教員の多くは4活動領域をほぼ均等に配分する。特に教育領域では20～30%のウェイトを置く教員が多い。
- ・ 研究活動については、他領域に比べて重点比率を高くする教員が多い。45%以上のウェイトを置く教員が全体の17%にのぼる。  
大学構成員の各領域におけるウェイトのかけ方について、部局内で指針が示す必要も考えられる。
- ・ 社会貢献及び管理運営に45%以上の高い重点を置く教員はそれぞれ全体の3%と1%であった。

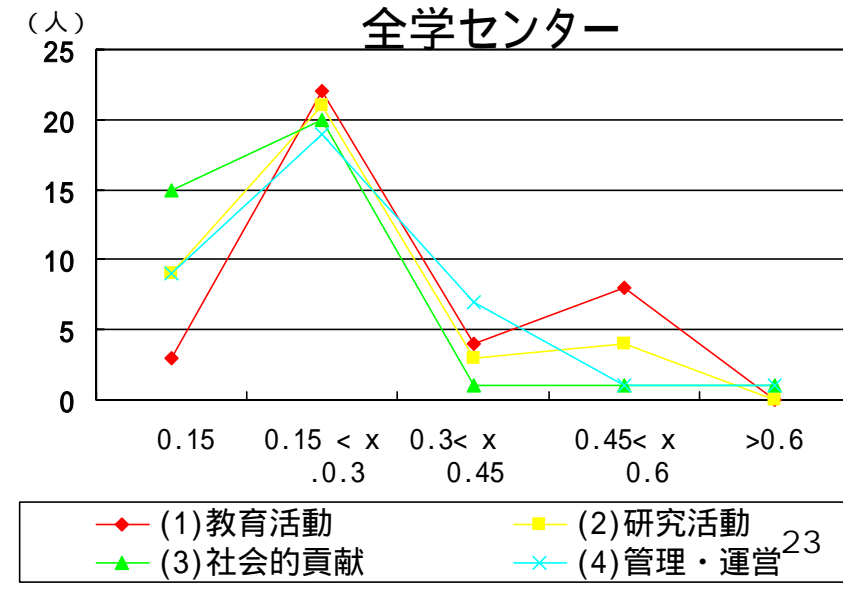
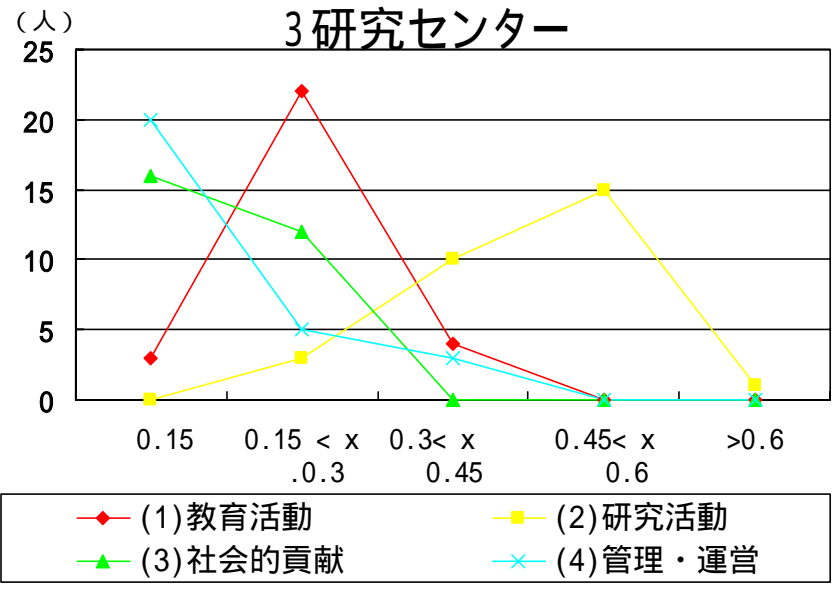
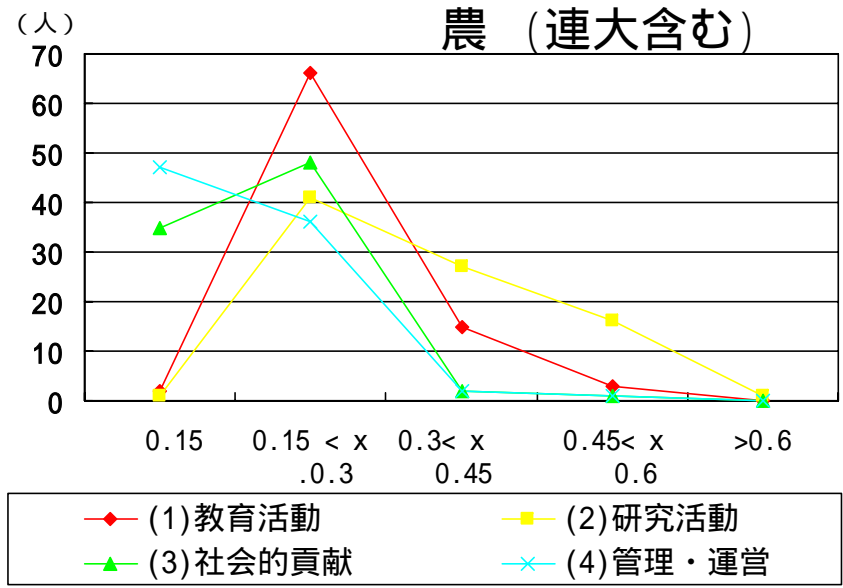
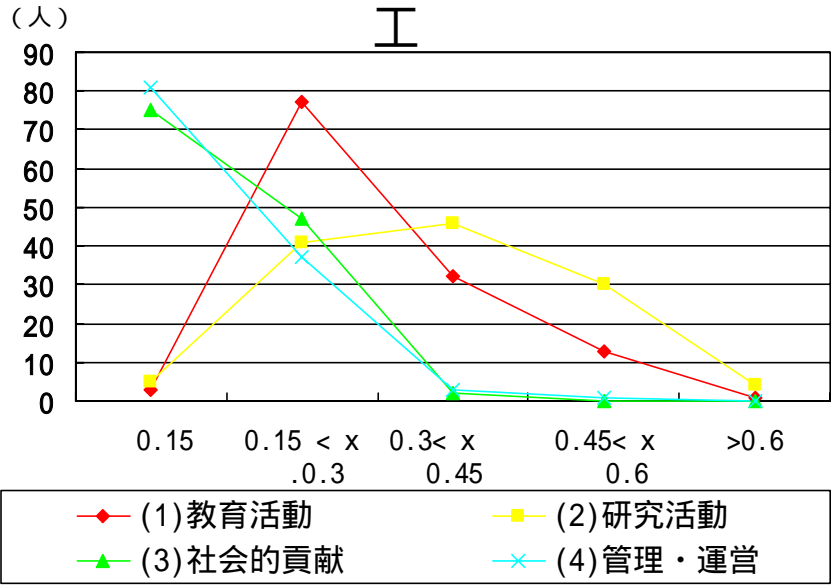
# 役職別に見た活動領域別の重点比率



# 部局別に見た活動領域別の重点比率(参考)



# 部局別に見た活動領域別の重点比率(参考)





# 問い合わせ先

## 愛媛大学 自己点検評価室

〒790-8577

松山市道後樋又 10 - 13

[jikoten@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:jikoten@stu.ehime-u.ac.jp)